



すぎなみ

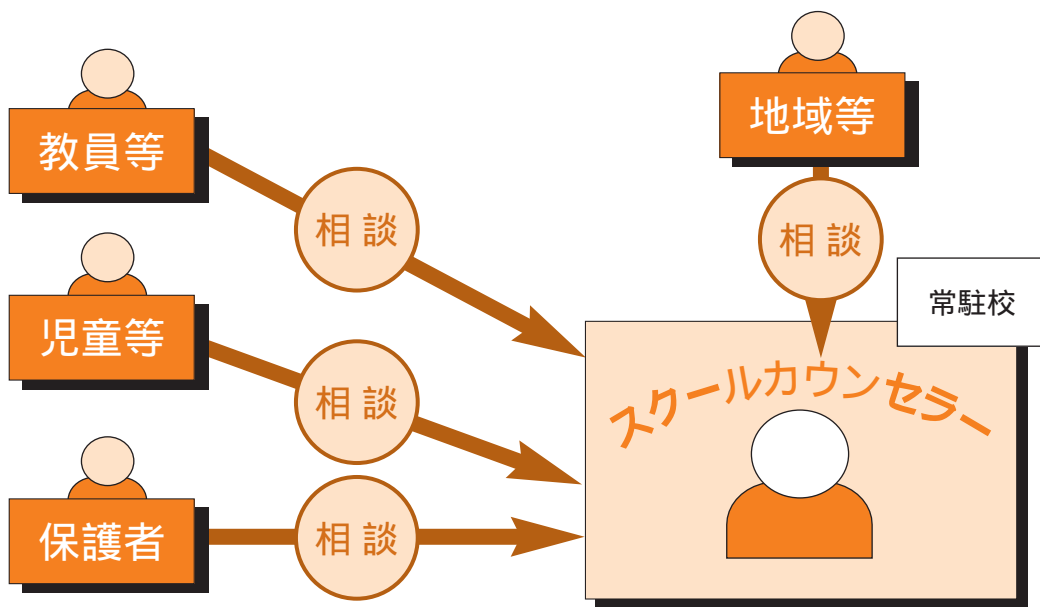
教育報

第170号
平成15年9月12日
発行 杉並区教育委員会
杉並区阿佐谷南1-15-1
☎ 3312-2111 FAX 5307-0692
区公式ホームページ
<http://www.city.suginami.tokyo.jp/>

はな話してみない? こころ心のなやみ

区立小学校のスクールカウンセラー制度

杉並区のスクールカウンセラーは、子どもや保護者、教職員の相談に応じています。



スクールカウンセラーってなに?

スクールカウンセラーの先生は、勉強のことや友達のことなど、いろいろなことせんせい べんきょうの相談相手になってくれます。ともだち

なやみごとや、こままっていることがある人は、えんりょなく相談してください。そうだん

* スクールカウンセラーは、保護者の方や地域の方のご相談も受け付けます。

* 問い合わせ先：済美教育研究所 ☎ 3311-0021

区内公立小学校を3つの地域に分け、その中にスクールカウンセラーを1名配置します。スクールカウンセラーは地域の中の1校を常駐校とし、子

ども、保護者等からの電話相談、訪問相談に応じます。訪問相談の際は、他の方と相談時間が重複しないように事前に電話で予約をしてください。

区内の小学校を地域ごとに3つのグループに分けています。(を付した小学校は常駐校)

地域1

杉並第一小・杉並第二小・杉並第三小・杉並第四小・杉並第六小・杉並第七小・杉並第八小・杉並第十小・西田小・東田小・馬橋小・桃井第二小・荻窪小・高井戸小・高井戸第二小
(常駐校相談対応電話) ☎ 080-1040-2094

地域2

杉並第五小・杉並第九小・若杉小・桃井第一小・桃井第三小・桃井第四小・桃井第五小・四宮小・井荻小・沓掛小・高井戸第四小・松庵小・八成小・三谷小
(常駐校相談対応電話) ☎ 080-1043-0967
注) 地域2については、10月2日から、電話相談と訪問相談を受け付けます。

地域3

高井戸第三小・浜田山小・富士見丘小・大宮小・新泉小・堀之内小・和田小・方南小・永福小・済美小・松ノ木小・和泉小・高井戸東小・久我山小・永福南小
(常駐校相談対応電話) ☎ 080-1027-8541

区立中学校のスクールカウンセラー

各中学校に週に1回、スクールカウンセラーが配置されています。

(小学生の保護者や地域の方も相談することができます。勤務日は各中学校にお問い合わせください。)



済美教育研究所の相談機能

済美教育研究所は、子どもの教育に関する相談を受け付けています。教育相談の内容・相談方法と、「夏休み子ども学習相談教室」、「夏休み学習なんでも電話相談室」についてご紹介します。

教育相談

済美教育研究所では、子どもの不登校、情緒、発達等の悩みについて相談を行っています。相談方法には、済美教育研究所に通う来所相談（事前予約が必要）、電話相談があります。また求めに応じ、相談員が区立学校に出向き、児童・生徒の指導方法等の相談を行う学校訪問相談も行い、学校との連携を図っています。

教育相談は、専門的な立場からカウンセリングや助言のできる相談員が行っています。

電話相談：3317 - 1189、3317 - 1190
予約受付電話：3311 - 0021

出張相談室

教育相談の一環として、10月から月に1回、出張教育相談を井草地域区民センターで行います。相談できる内容や相談員は済美教育研究所の来所相談と同様です。

10月の出張相談室は以下のとおり行う予定です。

日時：10月9日（木）
午前の部 午前9時～正午
午後の部 午後1時～4時
場所：井草地域区民センター 2階 和室
予約受付電話：3311 - 0021

他の方と相談時間が重複しないよう、なるべく事前に予約をしてお越しください。



夏休み子ども学習相談室 夏休み学習なんでも電話相談室

済美教育研究所では、今年度から、夏休みの時期に「夏休み子ども学習相談室」と「夏休み学習なんでも電話相談室」を開催しました。

とも今年度は初めての試みでしたが、8月11日から3日間行われた「子ども学習相談室（対象：小学生のみ）」には近隣の小学生ら延べ44名が研究所に集まり、熱心に指導員に質問をぶつける姿が見られました。

参加した小学生に感想を聞くと、「勉強を分かりやすく教えてくれたので、面白かった。」「（相談期間中に）また来たい。」と、大変好評でした。また8月18日から5日間行われた「なんでも電話相談室（対象：幼・小・中）」にも、たくさんの相談がありました。

来年の夏休みも実施する予定ですので、みなさんも活用してはいかがでしょうか。

麓にて

我が家の西方に奥多摩の丘陵が広がっている。この山並みにキュービートの頭に似た頂をもつ山があつて、この地に居を構えて以来、二階の窓を額縁にして観るのを楽しんできた。雨上がりの朝の青緑色の木々を水蒸気が昇る風景の美しさは格別である。何という名の山だろう。山に疎い私には地図も役に立たず、分からないままになっていた。登ってみたいという欲求もあつたが、見上げるような高さである。観て楽しむだけであつた。

このようにして長い歳月が流れた五年前のことである。大岳山という標高一二七メートルの山である。彼には二〇〇メートル程度の山は「登る」ものではなく「行く」もののだが、経験のない私には立派な山である。S氏の助言を受けて登山用のクツ、シャツ、雨具などを買そろえ、あの山に入る日を持った。

八月末の残暑厳しい高曇りの土曜日に御岳駅に降り立った。電車の到着時刻に合わせてバスが待っていて、電車を降りた登山客がどんどん乗り込んでいた。S氏が「乗るかい」と問いかけてきた。しかし初めての、しかも気になり続けてきた山である。自力で入りたい。私の「歩こう」の返事で歩き始め吉野街道に出、登山道に向かう。S氏をガイドにしたらの上り坂を歩く。初めのうちは仕事のこと、家族のことに花を咲かせていたものの、徐々に息が荒くなり、それに連れて口も足取りも重くなつていった。S氏の歩に合わせただただ黙々と坂道を登る。バスがあえぐようなエンジン音を轟かせて追いついていく。何台ものバスに抜かれたが、我々の歩みも着実に進み、一時間後にはケーブルカーの滝本駅にたどり着いた。S氏が再び「乗るかい」と言った。答えはもちろん「ノー」である。

滝本駅からは杉の木立をぬつづらおりの細道である。右折しては上り、左折しては上りの連続で、心臓が高鳴る割には前に進まない。先導役のS氏が遅れ気味の私を察して後ろに回って助言、激励の声をかけてくれる。曲がり角のところどころに踊り場のような空間がある。S氏の「休もう」の声に立ち止まると、額の汗がしたり落ちた。休憩場所の傍

らをケーブルカーがゴロゴロゴロゴロと上って行く。何回かの休憩の後、ビジターセンターに到着。しつかり元気を回復し、ボトルに水を補給して出発。目指す山頂はまだ遠い。しかし今、麓から観ていた青い山並みの中にいる。そう思うと気分は爽快。



御岳神社の先は人影もまばらになつた。ゆるやかなアップダウンの稜線、つい早足になる私に「ピッチを一定にしないと疲れるぞ」とS氏の声が飛ぶ。歩き始めて二時間。山歩きにも慣れて、そよ木々の葉音や小鳥のさえずりに足を止めるゆとりもできた。

さらに行くと、行く手に岩肌の露出した急坂が迫ってきた。「これを上れば頂上だ」というS氏の声。この坂がああキュービートの頭なのだろうか。麓からの眺めを想像する。露岩に取りつき、「ナンダサーカ、コンナサーカ」と足を励ましながらいよいよ登る。そしてついに麓から観てきた山の頂に出た。私が立つた最も高い大地である。両手を天に突き上げた。麓は霞んで眺望できなかったが、私の眼にはキュービート頭の山影にアリののように小さな人影が見えたようにな気がした。

麓に下り、バス停裏の小川に足を浸し、へとへとになつた身体を癒しながら、充実した良い一日だったと思つた。この充足足りた感慨は、奥多摩の山影を気にし続け、見たい知りたいという欲求がなければ味わえなかつたに違いないと思つた。S氏に「ずっとこたわり続けて本当によかつた」と言つた時、ふと、ヘレンケラーの「希望は人を成功に導く信仰だ」という言葉がよぎつた。確かに、しつかりと希望をもち、希求し続けるかぎり、向上への意欲を失ふことはあるまい。希望を講ずるヘレンの精神に学びたい。希望はひとそれぞれだが、それぞれの希望は労をいとわぬ努力の源泉となる。そしてその先にそれぞれの豊かな実りがある。

ご意見をお待ちしています

「教育委員からの発信」をお読みになつた方からのご意見を募集いたします。ご意見は郵送、または区のホームページで受け付けます。

送付先 〒166 8570 杉並区阿佐谷南1 15 1

ホームページ <http://www.city.suginami.tokyo.jp/> 杉並区教育委員会事務局庶務課 「教育委員への意見」あて

教育長 納富 善朗

相談の広場

～ 済美教育研究所に寄せられた相談事例～

けんかの絶えない小学校2年生のAさんの事例

「授業中に立ち歩き、けんかばかりしている」こういったAさんの行動を心配した担任の勤めで、お母さんは済美教育研究所の教育相談に訪れました。相談員は、母親の心に寄り添いながら相談内容を聞いていきました。

まずは、問題を整理して発達と環境の両面から見立て(心理的な手立ての見直しを立てること)を行いました。相談員はお母さんから、家庭や学校でのAさんの様子や幼少時、Aさんがどのような子どもだったのかなどを聞くとともに、検査も行いました。その結果、Aさんは話す力や目で図や形を理解する力はありませんでした。しかし、言葉を理解する力や場面・状況を理解する力、また目で見て「こう体を動かしたい」と思ったことを体の動きに伝える力などに遅れが見られ、発達に偏りがあることがわかりました。このことが授業中の立ち歩きやけんかなどといった行動の背景にあったのです。また周

済美教育研究所の教育相談部に相談のあった事例をわかりやすく毎号紹介していきます。
(プライバシー保護のため内容を一部変えています)



囲がそれに気づかずに接していたためにAさんは混乱し、その場に適した行動が取れずに叱られることが多くなり、やる気をなくしていったようです。

そこで、学校や学童クラブには、Aさんのためにわかりやすい言葉で話しかけること、その場に適した行動を教えること、努力したことを認めてもらうことなどの協力を依頼しました。一方相談員は、Aさんに体を動かす際の力の入れ方や抜き方の指導などの運動課題を取り入れて、目で見て考えたことが体の動きに伝わるよう発達を援助しました。家庭、関係機関との連携の結果、Aさんは徐々に立ち歩きやけんかが減り、友達とも楽しく遊ぶようになりました。

今後もこのような事例に対しては、関係機関との連絡を密にしながら、親子が持つ本来の力を発揮できるように支えていきたいと考えています。

優勝おめでとう ロボカップ世界大会優勝メンバー、小柴博士と懇談

イタリアで開催されたロボカップ世界大会に出場し、それぞれ小学生部門、中・高校生部門で見事優勝を飾った「チームHoriHori」と「アンティーク」のメンバー。イタリア出発前には、区役所のロビーで盛大な壮行会が行われました。また、世界大会優勝の記念に8月12日、科学館にて、ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊東大名誉教授と懇談しました。



区役所壮行会にて

科学館では、世界大会での様子をおさめたビデオを小柴博士と一緒に鑑賞したのち、メンバー一人一人が感想や意見を述べました。子どもたちは、小柴博士と対面できたことでみんな感激の面持ちでした。

小柴博士からは「世界大会で優勝したということは本当に大変なこと。皆さんは、そのことを大きな自信として、これからも自分の興味を持ったことにどんどん挑戦して行ってほしい。」と励ましの言葉をいただきました。

ロボカップの優勝や小柴博士とお話できたことは、子どもたちの今後の活動への大きな励ましとなったことでしょう。



小柴先生



自立支援プログラムとは?

「ひきこもり」をめぐる

マスコミ報道などで「ひきこもり」に関することや「ひきこもり」対応の事例などが紹介されています。

「ひきこもり」状態に至る要因には多様な要素が絡み合っていると言われており、地域での当事者やご家族への支援の対応・対策の講じにくさなどにもつながっています。

現在、杉並区では精神保健や学校教育などの他に、現在すすめている『杉並区教育改革アクションプラン』のなかでも「青少年期の自立支援に向けたプログラムの開発」を課題としています。「ひきこもり」への対応について自立支援という側面から思考し、家庭や学校だけではなく地域との関わりから検討をすすめる、社会的な支援につなげていきたいと考えています。

昨年度は「すぎなみコミュニティカレッジ」のひとつとして「居場所づくりプロジェクトサポーター育成」講座を開設し、「ひきこもり」に関する理解を深めてきました。今年度は若者や青少年の自発的行動による「地域との関わりづくり」をすすめるための人材育成などのプログラムを、若者たちとともにデザインしていきたいと考えています。

国語力の充実を

日本は単一民族により形成された国であるとの見方に対しては、異論を唱える人もいるでしょう。それは古代より日本列島には大陸系、南方系、等数多くの人々が渡来し、人種的にはかなりの混血がみられたのではないかと考え方もあるからです。まして、アメリカ合衆国は単一民族の国であるとは合衆国という名前からして賛成する人は恐らくいないでしょう。

このように民族と国との関係は様々ですが、日本やアメリカ合衆国があり、多くの国があつて世界が成り立ち動いていることを否定する人はいないでしょう。

その意味において、教育に関するさまざまな問題についても、これからは地球市民として生きると同時に日本人としての意識をもって生きる事も必要な事と思っております。

今、子供達の非行や事件は低年齢化し、ときにはマスコミを賑わす事例もみられますが、その根本的な原因、或いは対策についても、今までは人権尊重の名のもとに甘やかしてきた傾向はみられなかったのでしょうか。

常々、疑問に思っている事ですが、十年以上前から進められてきた所謂ゆとり教育路線はどの程度の効果を上げていたのでしょうか。学力の低下は見られないのか、落ちこぼれ、いじめ、不登校、等減少する兆しはあるのか、心もとない気も致します。一方、学校教育に於いても厳しさに対する遠慮が見られるように思われます。目標とする言葉も例えば「個性尊重」「自ら学ぶ意欲を育てる」「指導ではなく支援を」……勿論、これらは大切な事ですが同時に忍耐、努力、責任、世の中は必ずしも自分の思いどおりにはならない事、公の存在がある事、等を教えるのも教育の大きな目標の一つだと思えます。勉強する事は楽しいだけでなく、時には苦しい、辛い事もあり、それを経験

教育委員長職務代理者

宮坂 公夫



し、乗り越える事は将来の人間形成にとつても決して無駄にはならないと思えます。

この国のアイデンティティを立て直すためには教育を立て直す事が必要であり、その中核は国語教育、とりわけ、小学校の国語教育と考えております。国語は文化の中核です。昨年四月より具体的に実施されているゆとり教育に伴い授業時間は減少しているようですが、国語教育に使われる時間はどの程度になったのでしょうか。

言語は情報を伝達するための手段だけではなく、全ての論理的思考、知的活動の基礎を育て、更には古来祖先より伝えられてきた日本人としての、情緒、感性、を培うものとも考えられております。他の教科にさきかけて充分な時間を国語教育に費やしてほしいと思えます。

江戸時代、寺子屋の教育では、よく「読み・書き・そろばん」と言われておりました。現代はそれに話す事、聞く事の重要さも言われておりますが、やはり読む事はその中心であり、子供の年代に応じた古典に触れさせる事、音読をとおして日本語のリズムの美しさを学ぶ事は欠かす事の出来ない大切な事と思えます。私達は言葉をとおして祖先の心を学び、それを基礎に新しいものを求めて行く。新古今和歌集の撰者でもある藤原定家の残した言葉を借りるならば、「言葉は古きを慕い、新しきを求める」と言つことでしょうか。日本人の心を伝える繊細さをもった美しい日本語、子供達には是非受け継いでほしいと願っております。

教育委員からの発信

今年度の「教育委員からの発信」では

「学力向上」をテーマに五人の教育委員が紙面を通じて意見・情報等をみなさんに発信します。



富士見丘中学校では校舎内を涼しくするため、夏休みの間、生徒会が学校の屋上にすのこを敷く作業を行いました。すのこは廃材を活用し作成されました。これは富士見丘中の生徒自身の発案によるものです。

生徒たちの手で、学校のホームページを作っています！

和田中では、生徒自身の手によって、9月中の公開に向けて学校ホームページの更新作業が進められています。生徒らは、加治屋先生の指導の下、5月下旬から作業を続けてきました。



左から、島村さん、川合さん、佐々木さん、針ヶ谷さん

この日、パソコンルームに集まったのは、2年生男子4名。これまでに作成してきた内容を確認しながら、それぞれ意見を出し合っていました。体育祭などの学校行事を紹介するページでは、写真がふんだんに使われとても見やすい構成になっています。

今後は、写真に対するコメントを工夫するなど、さらに面白いものにしていきたいとの意気込みを語ってくれました。

これからも皆で作業を進め、早期の完成を目指したいとのこと。楽しいホームページが出来ると良いですね。

* 区立小・中学校のホームページは「杉並区公式ホームページ (<http://www.city.suginami.tokyo.jp/>)」の「施設案内」の「学校」を開き、それぞれの学校名の左側にある **HP** の印をクリックすると、ご覧になれます。



みんながんばっておどったよ！！

～高円寺北幼稚園の園児達が高円寺阿波踊りに参加～

8月27日(水) 今回で47回目を数える「高円寺阿波踊り」に、「杉の子連」のメンバーとして、初めて区立高円寺北幼稚園の園児31人が参加しました。園児達が、一生懸命おどる姿に、沿道からも盛んに声援が送られました。



「杉の子連」は、どこの連にも属さない子どもたち(主に杉並第四小児童)のための連として活動を続けてきました。杉並第四小の帆足校長が高円寺北幼稚園の園長を兼務しているという縁もあり、今回初めて、どこの連にも属さない園児達の参加が実現しました。

子供たちは、祭りの雰囲気、はじめはやや圧倒されていたようですが、「うまくおどれたし、面白かった」「にぎやかで楽しかった」「またやりたい」と、皆とても満足した様子でした。

ファミリー駅伝に参加しませんか？

今年も12月に、「ファミリー駅伝大会」を、都立和田堀公園競技場と善福寺川緑地周辺コースを会場として開催します。ぜひ奮ってご参加ください。

開催日時 平成15年12月14日(日) 午後1時～3時 (雨天中止)

競技方法 **宣言タイム制!** 子どもも大人もいっしょに走る競技です。当日のゴール予想タイムを申告していただき、その予想タイムと実際のタイムの誤差の少なさを競います。

走る距離は4人で分担! コースは都立和田堀公園競技場とその周辺を使った周回コースです。合計10周(約3.5Km)を、4名でリレーしてタスキをつなぎます。誰が何周走るかは、メンバーの年齢や体力に合わせて設定することができます。

参加費 **無料** 問い合わせ先: **社会教育スポーツ課 社会体育係**

* 申込用紙は10月頃から、区の施設(体育施設や区民事務所等)で配布いたします。広報すぎなみ10月21日号にも掲載予定です。ご覧ください。

中学生の創意ある意見がたくさん出されました

～天沼中学校で「教育委員と語る会」を開催～

7月中旬、天沼中学校で「教育委員と語る会」を開催しました。教育委員5人と天沼中の生徒の代表14人が杉並区の教育について話し合い、交流を深めました。

「図書館の本をもっと増やしてほしい。」「区内に陸上競技場を作してほしい。」など日頃の生徒たちの要望をはじめ、「先生の転勤はどのように決められるの?」「教育委員になるにはどうしたらいいか?」のような素朴な疑問も出されました。天沼中ではこの会に向けてクラス内で話し合いが持たれ、どんな意見を出そうか生徒たちが検討を重ねてきました。



教育委員からも世界と日本の学習時間の違いなど、生徒たちにとって身近でわかりやすい話がありました。

「教育委員のみなさんからいろいろな話を聞いて、とても勉強になった。」この日参加した生徒の感想です。最後に「中学生のみなさんと直にお話する機会が持てて、大変うれしかったです。また、話し合いたいことがあれば、いつでも学校に呼んでください。」と教育委員からもお礼の言葉が生徒たちに送られました。

教育委員は児童・生徒と話し合う場面をもっと増やしたいと考えています。みなさんの学校でも、「教育委員と語る会」を開いてみませんか。

教育委員会の動き

平成15年6月～8月

【教育委員会開催状況】

定例会	5回
臨時会	1回
議案	7件
報告事項	21件

【主な案件】

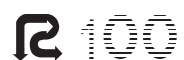
- は審議・は報告事項
- 心身障害学級・養護学校教科用図書の採択について
- 教育長の任命について
- (仮称)杉並区子ども読書活動推進計画
- ロボカップ世界大会出場について
- 「年度別学校希望制度結果」の送付について
- 教育機関における禁煙について
- 平成15年度杉並区立小学校・中学校教育課程分析
- 学期制検討委員会中間報告
- 学校における児童・生徒の結核健康診断の実施結果について



▶ **「国際交流の集い」**を開催します。外国人児童生徒の日本語によるスピーチ、帰国児童生徒による英語のスピーチの発表があります。子どもたちの学びの成果を是非、ご覧ください。その他、トルコの民族楽器サズの演奏もあります。

日時: 10月25日(土) 午前10時～正午

場所: 杉並第四小学校体育館 問い合わせ先: 国際理解・帰国児童生徒教育センター ☎5373-0809



古紙配合率100%再生紙を使用しています。